

## 0560 | 造形基礎 I

2 単位（通信授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、小島隆三講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

美術の表現の基底には、常に私達の現実の身体がある。私達の手と身体はそこから様々な表現が紡ぎ出される源である。ここでは手と身体を使ったドローイングを行うことにより、そこから湧き出る多様な表現と身体の間わりを理解し認識を深める。通信授業では、線を引くことから始め、描くこと、イメージトレーニング、コンセプト・ドローイング、偶発的効果によるドローイング等の実践を通じて、造形の基礎を再認識する。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

- 1-1 自分の身体より大きな模造紙にドローイングする。
- 1-2 1枚の模造紙にドローイングした後、紙面上より気に入った部分（B3サイズ）を切り取る。  
また、その部分を切り取った理由を200～400字で解説する。
- 1-3 音楽を聴きながら帯状の長い紙にドローイングする。
- 1-4 かつて自分が訪れた場所（自然界や街）の記憶や印象をもとにしたイメージをドローイングする。  
また、その記憶や印象の内容を200～400字で解説する。
- 1-5 デカルコマニーをもとに、ドローイングを加え発展させる。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『造形基礎 I～IV 2019 年度』の「造形基礎 I」を参照。

教科書『造形基礎』の「造形基礎 I 手と身体／ドローイング」を参照。

## 成績評価の方法

通信授業課題による評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 必修科目（3 年次編入学生を除く）。

1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。

## 教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『造形基礎 I～IV 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## 0570 | 造形基礎 II

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、大浦一志教授、原一史教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、小島隆三講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星見講師、松村繁講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

観察と描写、つまり具体的な対象を目の前にし、見て描くことを行う。その際「このように見なければならぬ。」あるいは「このように描かなければならぬ。」という一般通念的な先入観を持たないよう意識し、見えている像と描いている像を出来る限り近づける過程を通じて、現在の自分がどのように対象を見ているかを確認してみることがこの課題の目的である。また、対象の克明な追求により「見ること」「描くこと」の基礎体力を養い、基本的な造形要素の理解を深め、描材との接触を通じて描くことを体験する。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

1-1 自分の頭部をデッサンする。

1-2 自分の手をデッサン、クロッキーする。

## ○面接授業課題

焦がした立方体または直方体の木材を描く。B2 以上の画用紙または木炭紙。描画材は基本的に鉛筆、木炭。その他コンテ、水彩絵具等の併用可。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『造形基礎 I～IV 2019 年度』の「造形基礎 II」を参照。

教科書『造形基礎』の「造形基礎 II 観察と描写」を参照。

## [面接授業]

第 1 日 午前：課題説明・制作 午後：制作（焦がした立方体または直方体の木材を描く）

第 2 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

OLP オンラインプラス [準備] 一面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 必修科目（3 年次編入学生を除く）。

1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。

地方会場でのスクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

## 教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『造形基礎 I～IV 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## 0580 | 造形基礎 III

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

白尾隆太郎教授、大浦一志教授、原一史教授、山本靖久教授、高崎葉子講師、山本晶講師、木多美紀子講師、野崎麻理講師

## 授業の概要と目標

造形基礎Ⅲ「感情と色彩」では、色彩の原初的体験と色彩の対比について学ぶ。色は、光が物に当たり反射することによって脳が感じている光の波長である。物質の性質の違いによって私たちには異なった色として見えるが、そんな色に対して私たちは子どもの頃から「美しさ」や「面白さ」を感じ、花や木や太陽をクレヨンなどの色材を使って描いたりしてきた。色は、私たちに様々な感覚や感情を抱かせる魅力的な要素なのである。

通信授業課題では、様々な素材の色を採取する。恣意的に色を選択するのではなく、自然からものを選び、その色の特長や色の組み合わせに美しさや面白さを感じながら、新しい色を発見することが目的である。面接授業課題では多人数の中での課題制作を通して、たくさんの色彩表現の可能性を体験することになるだろう。

色彩は美術やデザインを学ぶものにとって、形の修練と並んで大切な要素であり、原点に立ち返って様々な色を体験して欲しい。たくさんの色を経験することによって得られた色彩表現の可能性は、必ずやこれから進む分野で生かされることだと思われる。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

1-1 色のレシピ

1-2 色のハーモニー

## ○面接授業課題

感情と色彩表現に関連した課題制作を行う。自由な描画方法により、各自がそれぞれの色彩による感情表現を学習する。

## 授業計画

## [通信授業]

教科書『造形基礎』の「造形基礎Ⅲ 感情と色彩」を参照。

学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ 2019年度』の「造形基礎Ⅲ」を参照。

## [面接授業]

第1日 午前：課題説明とワークショップ 午後：制作

第2日 午前：制作 午後：制作・講評

○LP オンラインプラス [準備] —面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

## 成績評価の方法

[通信授業] 通信授業では課題 1-1 と 1-2 をそれぞれ個別に採点し平均の評価とする。

[面接授業] 面接授業の評価はエスキース、スケッチを含めた全体評価とする。  
科目の評価は、通信授業と面接授業の平均とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 必修科目（3 年次編入学生を除く）。

1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。  
地方会場でのスクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

## 教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ 2019 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## その他

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

## 0590 | 造形基礎Ⅳ

2 単位（通信授業 2 単位）

牧野良三教授、富谷智講師、竹中義明講師、生川清孝講師、中澤小智子講師

## 授業の概要と目標

我々が暮らす環境は、様々なモノとモノとが互いに関係しあいながら、水平、垂直的な広がりを持って機能し我々の関係を支えている。これを造形的な視点で言い換えれば、様々な立体が空間とよばれる広がりの中で構成され、多様な世界を作り上げている。とすることが出来る。また、立体を認識し、空間を実感するには、光の存在を抜きに語ることは出来ない。

造形基礎Ⅳでは、自ら作り出した立体を空間に構成し、光を照射することで生まれる空間の様々な表情を、各々の段階で観察し、記録する。立体と空間、光と影、そこから生まれる豊かな空間の表情を探ることは、各々の関係を考察することである。

空間に対する認識を深め、美しい空間の表情を発見しその可能性を追求することがこの科目の目的である。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

## 1-1 紙の造形

切り出された紙片からパーツを作り、立体的に組み合わせ配置することで立体や空間の可能性を探る。

## 1-2 空間を描く

立体構成によって生まれる光と影の美しい空間を発見し、平面に定着させる。

## 授業計画

## [通信授業]

教科書『造形基礎』の「造形基礎Ⅳ 立体から空間へ」を参照。

学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ 2019年度』の「造形基礎Ⅳ」を参照。

## 成績評価の方法

各課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1 年次

[履修条件] なし

[備 考] 必修科目（3 年次編入学生を除く）。

1 年次に履修すること（2 年次編入学生は 2 年次）。3 年次編入学生は必修ではない。

## 教材等

教科書：『造形基礎』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：学習指導書『造形基礎Ⅰ～Ⅳ 2019 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## 0600 | デッサンI

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、  
大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、  
神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

人間を描く。造形性を学ぶ上で、人物は最も適した対象の一つである。人間の形は限定されたものでありながら、その動きや姿勢によって形の変化は無限であり、その複雑さ、微妙さはとても魅力的である。

通信授業では、自分や家族を描き、面接授業ではモデルを使い、人物の骨格や形態、フォルムの美しさ、生命力などの把握を目指す。

## 課題の概要

○通信授業課題「家族・自分を描く」

1-1 家族・自分をクロッキーする。

1-2 「1-1」と同モチーフをデッサンする。

○面接授業課題「人間を描く」

1-1 人体（ヌード及びコスチューム）をクロッキー・デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭。2 点提出。

## 授業計画

[通信授業]

学習指導書『デッサンI・II デッサン研究 2019 年度』の「デッサンI」を参照。

教科書『絵画一素材・技法一』の第1章「デッサン・油彩」等を参照。

[面接授業]

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（人体を描く）

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

## 教材等

教科書：『絵画一素材・技法一』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『デッサンI・II デッサン研究 2019 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## 0610 | デッサンII

2 単位 (通信授業 1 単位、面接授業 1 単位)

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

自然（風景）は変化に富み、我々に様々な感動を与え、諸々の感情を呼び覚ましてくれる。しかし、これを絵として定着させるためには、このような感動の背後にある造形的な根拠を理解することが必要になる。目の前に広がる我々の住む世界をどう認識し、絵画としてどう捉えて行くかを探究する。

通信授業では、自分の住む町の風景を描き、面接授業では、大学近郊の風景を描く。

## 課題の概要

○通信授業課題「自分の住む町」

1-1 自分の住む町をモチーフにクロッキーする。

1-2 「1-1」と同モチーフをデッサンまたは油彩で制作する。

○面接授業課題「風景を描く」

1-1 風景をデッサン（鉛筆淡彩可）または油彩で制作する。デッサンの場合は B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆、水彩または木炭。油彩の場合、15～20号キャンバス。

## 授業計画

[通信授業]

学習指導書『デッサンI・II デッサン研究 2019年度』の「デッサンII」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第3章「水性絵具」等を参照。

[面接授業]

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（風景を描く）

第2日 午前：制作 午後：制作

第3日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「デッサンI」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること(2,3年次編入学生を除く)

[備考] 「デッサンI」、「デッサンII」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

## 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

学習指導書：『デッサンI・II デッサン研究 2019年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

## 2150 | デッサン研究

2 単位（通信授業 1 単位、面接授業 1 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

デッサンとは、単に物の形をなぞることではなく、対象の存在と描く側の存在との関係の中で、感覚的な受容と知的な分析を通して行う総合的創造作用である。どのようなモチーフであっても、それを選んだ者の内面が反映されていて、対象を見つめることは自分自身と向き合うことでもある。

通信授業では、自分自身を投影できるモチーフを選び、時間をかけて観察し追求することで、自分自身の再発見を目標とする。面接授業では、人体（裸婦）を対象に、人間の体を生動する一つの生命体として捉え、デッサンによる新たな人体表現の可能性を学ぶ。

## 課題の概要

○通信授業課題「モチーフとの対峙」

1-1 日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、クロッキーする。

1-2 日用品や野菜、果物など、身近にあるもので最も描きたいと思えるモチーフを選び、デッサンする。また、モチーフを選んだ理由を 200～400 字で解説する。

○面接授業課題「モチーフとの対峙」

1-1 人体（裸婦）をデッサン（水彩等の併用可）または油彩を制作する。デッサンの場合は B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具等、または木炭。油彩の場合は 20～25 号キャンバス。

## 授業計画

[通信授業]

学習指導書『デッサン I・II デッサン研究 2019 年度』を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（人体を描く）

第 2 日 午前：制作 午後：制作

第 3 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備考] 履修年次は問わない。

## 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『デッサン I・II デッサン研究 2019 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## 0620 | 絵画研究 I

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、川口起美雄教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大野彩講師、大家泰仁講師、小島隆三講師、加藤健二講師、喜井豊治講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、米内則子講師、渡辺えつこ講師

## 授業の概要と目標

西洋中世からルネサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に止まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がり学ぶ。

通信授業では各技法の基礎と理論を学ぶと共にデッサン及びアクリル絵具、ガッシュ（不透明水彩）による着色をともなったデッサンが課せられる。面接授業では、テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの4つの技法から1つを選択し、実習を通して学ぶ。

## 課題の概要

○通信授業課題「古典技法で描く」

1-1 身のまわりの物をモチーフにクロッキーする。

1-2 1-1で行ったクロッキーを基に、着色した画用紙又は色画用紙に、鉛筆と白い描画材（コンテ、パステル、色鉛筆など）でデッサンする。

1-3 植物や樹木あるいは食物をモチーフにクロッキーする。

1-4 1-3で行ったクロッキーを基にアクリル絵具又はガッシュ（不透明水彩）による着色をする。

○面接授業課題「古典技法等の実習」

1-1 「古典技法」等の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。テンペラ・フレスコ・モザイク・ステンドグラスの4つの表現技法の中から1つを選択し、制作する。

## 授業計画

[通信授業]

学習指導書『絵画研究 I・II 2019 年度』の「絵画研究 I」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 3 章「水性絵具」、第 4 章「古典技法」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及び制作 午後：制作（各古典技法による制作）

第 2～5 日 午前：制作 午後：制作

第 6 日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

## 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『絵画研究 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## 0630 | 絵画研究 II

4 単位（通信授業 2 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、川口起美雄教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、小島隆三講師、加藤健二講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、瀬島匠講師、東俊行講師、星晃講師、山本明比古講師、渡辺えつこ講師、渡邊洋講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

油性系、水性系選択。

油性、又は水性のいずれかの絵具の性質を選択し、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。油性系は、油彩画における基本的な技法を学ぶ。指定された色の混色を通して、絵画における彩色への展開と絵画空間の構築を学んでいく。又、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高める事により、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。

通信授業では、色数制限による油彩に取り組む。面接授業では、支持体や絵具層、下層描きと上層彩色の関連、油絵具の特性と表現の関連等を考察・研究する「絵画組成」を実習を通して学ぶ。

水性系は、水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶ。

通信授業は指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること彩色することを学んでいく。また、水を利用することや支持体がもたらす表現の可能性を様々な手法を体感しながら、構築すること表現を知ることを知る。面接授業では絵画表現における造形研究として、伝統的な墨がもたらす白黒の色の幅と、素材として重厚な支持体の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用方法から応用までを学ぶ。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

〈油性系〉「色数制限」

- 1-1 イエローオーカー、ライトレッド、コバルトブルーの3色による色相環を作る。
- 1-2 ライトレッド+コバルトブルー+シルバーホワイト等の3色に色数制限し、油彩で制作する。
- 1-3 「1-2」と同じモチーフを、ライトレッド+イエローオーカー+コバルトブルー+シルバーホワイト等の計4色に色数制限し、油彩で制作する。

〈水性系〉「構築」

- 1-1 制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。
- 1-2 静物をモチーフにスタンピングでデッサンする。
- 1-3 組み合わせた透明素材をモチーフに支持体と描画材をともに3種類選択し、デッサンする。

## ○面接授業課題

〈油性系〉「古典模写」

- 1-1 ルーベンスやレンブラント等の17世紀絵画の特徴は油絵具の可塑性と透明性を最大限に活かしていることにある。作品の模写を通してカマイユあるいはグリサイユ等を用いた重層的な絵画構築を学ぶ。

〈水性系〉「墨で描く作画」

- 1-1 墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150号程度の作品を描く。

---

**授業計画**

## [通信授業]

学習指導書『絵画研究 I・II 2019 年度』の「絵画研究 II」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 3 章「水性絵具」、第 4 章「古典技法」等を参照。

## [面接授業]

## 〈油性系〉

第 1 日	午前：前提講義及び制作（古典模写）	午後：制作（下層描き）
第 2 日	午前：制作	午後：制作
第 3 日	午前：制作	午後：制作
第 4 日	午前：制作及び講義	午後：制作及び講義
第 5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：採点・講評

## 〈水性系〉

第 1 日	午前：前提講義及び写生	午後：写生
第 2 日	午前：墨による制作	午後：墨による制作
第 3 日	午前：手本からの学習	午後：手本からの学習
第 4～5 日	午前：自由制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

---

**成績評価の方法**

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

---

**履修条件及び履修年次**

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「絵画研究 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（2、3 年次編入学生を除く）。

[備 考] 「絵画研究 I」、「絵画研究 II」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合など順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

---

**教材等**

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局刊行 2002 年）

学習指導書：『絵画研究 I・II 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## 2300 | 絵画研究 III

2 単位（面接授業 2 単位）

三浦明範教授、川口起美雄教授、大野彩講師、喜井豊治講師、米内則子講師

## 授業の概要と目標

「絵画研究 I」を履修した者が、同科目で選択しなかったテンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの 4 つの技法から 1 つを選択し、さらに研究を重ねることを目的とした科目。授業としては絵画研究 I と同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

西洋中世からルネサンス期に至るまでの主要な絵画技法であったテンペラ画を中心に、古典技法のフレスコ、モザイクや、中世ゴシック期に花開いたステンドグラスを体験学習することにより、単なる技法の習得に止まらない、素材と表現の在り方を通して造形表現の広がりを学ぶ。

## 課題の概要

○面接授業課題「古典技法等の実習」

1-1 「古典技法」等の実習を通して素材と表現の在り方を学ぶ。テンペラ、フレスコ、モザイク、ステンドグラスの 4 つの表現技法の中から 1 つを選択し、制作する。

## 授業計画

第 1 日目	午前：前提講義及び制作	午後：制作（各古典技法による制作）
第 2～5 日目	午前：制作	午後：制作
第 6 日目	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

作品による評価

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「絵画研究 I」の単位を修得していること

「絵画研究 I」で選択していない技法を選択すること。

[備 考] スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

## 教材等

教科書：[絵画—素材・技法—]（武蔵野美術大学出版局刊行 2002 年）

## 2310 | 絵画研究 IV

2 単位（面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、川口起美雄教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

## 授業の概要と目標

油性系、水性系選択。

絵画研究Ⅱを履修した者が、同科目で選択した油性系または水性系と異なる系の選択で学習することを条件に、さらに研究を重ねることを目的とし、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。授業としては絵画研究Ⅱと同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

油性系は、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高めることにより、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。支持体や絵画層、下層描きと上層彩色の関連、油絵具の特性と表現の関連等を考察・研究する「絵画組成」を実習を通して学ぶ。

水性系は水などを媒体とした絵具の表現の幅を学ぶ。絵画表現における造形研究として、伝統的な墨がもたらす白黒の色の幅と、素材として重厚な支持体の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用方法から応用までを学ぶ。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

## &lt;油性系&gt; 「古典模写」

1-1 ルーベンスやレンブラント等の 17 世紀絵画の特徴は油絵具の可塑性と透明性を最大限に活かしていることにある。作品の模写を通してカマイユあるいはグリザイユ等を用いた重層的な絵画構築を学ぶ。

## &lt;水性系&gt; 「墨で描く作画」

1-1 墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150 号程度の作品を描く。

## 授業計画

## &lt;油性系&gt;

第 1 日目	午前：前提講義及び制作（古典模写）	午後：制作（下層描き）
第 2 日目	午前：制作	午後：制作
第 3 日目	午前：制作	午後：制作
第 4 日目	午前：制作及び講義	午後：制作及び講義
第 5 日目	午前：制作	午後：制作
第 6 日目	午前：制作	午後：採点・講評

## &lt;水性系&gt;

第 1 日目	午前：前提講義及び写生	午後：制作（下層描き）
第 2 日目	午前：墨による制作	午後：墨による制作
第 3 日目	午前：手本からの学習	午後：手本からの学習
第 4～5 日目	午前：自由制作	午後：制作
第 6 日目	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

作品による評価

## 履修条件及び履修年次

- [履修年次] 2～4 年次  
 [履修条件] 「絵画研究Ⅱ」の単位を修得していること  
 「絵画研究Ⅱ」で選択していない系統を選択すること。  
 [備 考] スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

## 教材等

教科書：[絵画—素材・技法—]（武蔵野美術大学出版局刊行 2002 年）

## 2320 | 版画研究 I

2 単位 (面接授業 2 単位)

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

## 授業の概要と目標

版表現では、平、凸、凹、孔、の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念で結ばれている。

授業は面接授業のみで行い、「木版」か「リトグラフ」のどちらかを選択し、版種の特性と表現の関係を体感しながら、その基本技法を習得する。また、「版」を用いることで造形的課題を明確にする。

## 課題の概要

○面接授業課題「技法と表現の発展①」

1-1 「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作をする。

・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm

・「リトグラフ」：イメージサイズ：30×40cm 程度

## 授業計画

[面接授業]

・「木版」または「リトグラフ」(選択)

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2～5日 午前：制作 午後：制作

第6日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

面接授業の総合評価

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「版画I」の単位を修得していること。

[備考] スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある

## 教材等

教科書：『新版 版画』(武蔵野美術大学出版局 2012年)

## 2330 | 版画研究 II

2 単位（面接授業 2 単位）

遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師、渡邊洋講師

## 授業の概要と目標

版画は紙やキャンバスに直接描くのではなく、「版」という媒体を使った間接的な表現である。そこには様々な魅力や偶然性、造形的発見などが混在している。

授業は面接授業のみで行い、「銅版」か「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、その基本技法を習得する。また、「版」を用いることで、イメージの膨らみや発想の広がりを感じ、造形上の課題を明確にする。

## 課題の概要

○面接授業課題「技法と表現の発展②」

1-1 「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作をする。

・「銅版」イメージサイズ：18.2cm×24cm

・「スクリーンプリント」：イメージサイズ：A4 程度、30cm×42cm 程度（各1点）

## 授業計画

[面接授業]

・「銅版」または「スクリーンプリント」（選択）

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作

第2～5日 午前：制作 午後：制作

第6日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

面接授業の総合評価

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「版画II」の単位を修得していること。

[備考] スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある

## 教材等

教科書：『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

## 0640 | 彫塑 I 【塑造クラス】

2 単位（面接授業 2 単位）

協谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

## 授業の概要と目標

彫塑 I は【塑造クラス】と【木彫クラス】に分かれて授業を行います。

## 【塑造クラス】

人体頭部を観察し、粘土（塑造）及び石膏（直付け）でほぼ等身大の頭部彫刻を制作します。

人体頭部は古くから彫刻の主題として取り扱われてきました。人体頭部を制作することは、かつて彫刻を学ぶ者にとって、全身像を制作するための予備的あるいは初歩的な修業と捉えられることもありました。しかし、この授業において人体頭部を対象に制作する理由は、みなさんが彫刻の初心者だからではありません。この授業の1つの目標は、彫刻制作を通して、自分の顔の特徴や頭の形はもとより、家族、通りがりの街の人々など、「毎日見るものだから私は知っている」と思い込んでいる「人体頭部」の全てをあらためて観察しなおして見ることにあります。人体頭部の観察を通して、日常生活の中での「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。

この授業において重要なことは、「人体頭部」という概念をまとめ上げるのではなく、目の前いる生身のモデルの頭部を、自分の目を通して深く観察し、そこから得たものを粘土や石膏で、かたちに置き換えてゆくことにあります。造形の世界でいうかたちとは対象にあるだけではなく、それを見て触発された自分の内に生じるものです。つまり、モデルの頭部を観察すると同時に、自分が作ったかたちもよく観察する必要があります。モデルの頭部となぜ違うのか、何が足りないのか、あるいは何が多すぎるのか、試行錯誤を繰り返し制作することで、さらに対象の観察が深まることを体験してください。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

## 【塑造クラス】

人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土及び石膏直付けで彫刻を制作します。

授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏直付けにより継続して制作します。

## 授業計画

## [面接授業]

## 【塑造クラス】

第1日	午前：前提講義	研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意	午後：制作（塑造）
第2日	午前：制作		午後：制作
第3日	午前：制作		午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～18:30）
第4日	午前：石膏型取り作業		午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～18:30）
第5日	午前：清掃、制作（石膏直付け）		午後：制作
第6日	午前：制作		午後：清掃、講評・採点

## 成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「造形基礎 I～IV」の単位を既に修得していることを条件（3年次編入学生を除きます）とします。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

## 教材等

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

---

**その他**

- ・授業初日より、必ず、作業服・作業靴（運動靴可）を着用してください。
- ・「彫塑Ⅰ」【塑造クラス】は、「彫塑Ⅲ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。  
（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます。）
- ※「彫塑Ⅰ」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する科目」として取り扱われます。

## 0640 | 彫塑Ⅰ【木彫クラス】

2単位（面接授業2単位）

脇谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

## 授業の概要と目標

彫塑Ⅰは【塑造クラス】と【木彫クラス】に分かれて授業を行います。

## 【木彫クラス】

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が20 cmの立方体に製材された木材を素材として彫刻を制作します。

この授業では、自然物であるモチーフを観察し立体として制作することを通して、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見します。

木材が、粘土や石膏のように簡単に加工することが難しい素材であるため、木彫制作は難しいのではないかと感じる人がいます。かつての美術大学では、粘土などの可塑性の高い素材で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に行うことが望ましいとされていました。確かに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることへの厳密さが求められます。しかし、木彫制作のそういった特質こそが、制作者に、造形上の思い切った判断や決断を促してくれる条件づけにもなることを体験してください。

木彫制作を通して木材から切り出され、彫り出される形が、粘土など可塑性の高い素材で作られた形よりも明確な立体上の性格を帯びやすいことも、この授業での彫刻制作体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。

動きまわる山羊や羊の観察を通して、「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。

\*この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって事前に木工技術や木彫りの方法を事前学習しておく必要もありません。(木彫制作のための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います)

## 課題の概要

## ○面接授業課題

## 【木彫クラス】

自然物をモチーフに、一辺20 cmの立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

## 授業計画

## [面接授業]

## 【木彫クラス】

第1日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明	午後：制作（木彫）
第2日	午前：制作	午後：制作・木材接着説明
第3日	午前：制作	午後：制作・鑿研ぎ説明
第4日	午前：制作	午後：制作
第5日	午前：制作	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

## 成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を既に修得していることを条件（3年次編入学生を除きます）とします。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

---

**教材等**

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

---

**その他**

- ・授業初日より、必ず、作業服・作業靴（運動靴可）を着用してください。
- ・「彫塑Ⅰ」【木彫クラス】は、「彫塑Ⅲ」【木彫クラス】と合同で面接授業を行います。  
（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます。）
- ※「彫塑Ⅰ」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、油絵学科教職課程履修者の「教科に関する科目」として取り扱われます。

## 0650 | 彫塑 II

2 単位（面接授業 2 単位）

伊藤誠教授、黒川弘毅教授、富井大裕准教授

## 授業の概要と目標

現実的（アクチュアル）な世界は、「変化して止まぬ不定性」と「揺るぎない不動性」という両面性を持つ。彫刻の制作には、この両面への探究が不可欠である。触覚はしばしば言われているような手で触れる感覚ではない。見えないが、実在的（リアル）な対象であるエモーション（情動）を実体化する働きを持ち、正確には「内触覚」と呼ばれる。量塊は、内触覚の働きによって、豊かな両面性を獲得する。この課題は、量塊の問題について考察し、立体表現を追求する。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

課題として用意された詩・短歌等を契機として、作品制作を試みる。

詩・短歌等の言葉を造形的に解釈し、粘土塑造と石膏型取り、及び石膏彫刻により作品を制作する。

## 授業計画

## [面接授業]

第1日 午前：オリエンテーション 午後：技法説明  
 第2日 午前・午後：制作  
 第3日 午前・午後：制作  
 第4日 午前・午後：制作  
 第5日 午前・午後：制作  
 第6日 午前：清掃・展示 午後：講評

## 成績評価の方法

出席の状況を確認しながら、提出し展示された作品の内容を担当教員と講師により合議の上、採点評価を定める。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（3年次編入学生を除く）。

[備考] なし

## 教材等

教材は実習時に配付する。道具は実習時に指示する。

## その他

油絵学科所属の教職課程履修者は、この授業科目は「教科に関する科目」として取り扱われる。

## 0660 | 彫塑 III 【塑造クラス】

2 単位（面接授業 2 単位）

脇谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

## 授業の概要と目標

彫塑Ⅲは【塑造クラス】と【木彫クラス】に分かれて授業を行います。

## 【塑造クラス】

人体頭部を観察し、粘土（塑造）及び石膏（直付け）でほぼ等身大の頭部彫刻を制作します。

人体頭部は古くから彫刻の主題として取り扱われてきました。人体頭部を制作することは、かつて彫刻を学ぶ者にとって、全身像を制作するための予備的あるいは初歩的な修業と捉えられることもありました。しかし、この授業において人体頭部を対象に制作する理由は、みなさんが彫刻の初心者だからではありません。この授業の1つの目標は、彫刻制作を通して、自分の顔の特徴や頭の形はもとより、家族、通りすがりの街の人々など、「毎日見るものだから私は知っている」と思い込んでいる「人体頭部」の全てをあらためて観察しなおして見ることにあります。人体頭部の観察を通して、日常生活の中での「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。

この授業において重要なことは、「人体頭部」という概念をまとめ上げるのではなく、目の前いる生身のモデルの頭部を、自分の目を通して深く観察し、そこから得たものを粘土や石膏で、かたちに置き換えてゆくことにあります。造形の世界でいうかたちとは対象にあるだけではなく、それを見て触発された自分の内に生じるものです。つまり、モデルの頭部を観察すると同時に、自分が作ったかたちもよく観察する必要があります。モデルの頭部となぜ違うのか、何が足りないのか、あるいは何が多すぎるのか、試行錯誤を繰り返し制作することで、さらに対象の観察が深まることを体験してください。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

## 【塑造クラス】

人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土及び石膏直付けで彫刻を制作します。

授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏直付けにより継続して制作します。

## 授業計画

## [面接授業]

## 【塑造クラス】

第1日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意	午後：制作（塑造）
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～18:30）
第4日	午前：石膏型取り作業	午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～18:30）
第5日	午前：清掃、制作（石膏直付け）	午後：制作
第6日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

## 成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を既に修得していることを条件（3年次編入学生を除きます）とします。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

## 教材等

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

---

その他

- ・授業初日より、必ず、作業服・作業靴（運動靴可）を着用してください。
- ・「彫塑Ⅲ」【塑造クラス】は、「彫塑Ⅰ」【塑造クラス】と合同で面接授業を行います。  
（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます。）
- ※「彫塑Ⅲ」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、芸術文化学科教職課程履修者の「教科に関する科目」として取り扱われます。

## 0660 | 彫塑 III 【木彫クラス】

2 単位（面接授業 2 単位）

脇谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

## 授業の概要と目標

彫塑Ⅲは【塑造クラス】と【木彫クラス】に分かれて授業を行います。

## 【木彫クラス】

山羊または羊の頭部を観察し、一辺が 20 cm の立方体に製材された木材を素材として彫刻を制作します。

この授業では、自然物であるモチーフを観察し立体として制作することを通して、自然の摂理をはじめとする造形上の様々な要素を発見します。

木材が、粘土や石膏のように簡単に加工することが難しい素材であるため、木彫制作は難しいのではないかと感じる人がいます。かつての美術大学では、粘土などの可塑性の高い素材で立体造形に関する一定の訓練を積んだ後に行うことが望ましいとされていました。確かに、鋸で引く、あるいは鑿を入れる判断を下すためには、造形上の厳密さと、それに先立つ対象を見ることへの厳密さが求められます。しかし、木彫制作のそういった特質こそが、制作者に、造形上の思い切った判断や決断を促してくれる条件づけにもなることを体験してください。

木彫制作を通して木材から切り出され、彫り出される形が、粘土など可塑性の高い素材で作られた形よりも明確な立体上の性格を帯びやすいことも、この授業での彫刻制作体験を鮮やかなものとしてくれるでしょう。

動きまわる山羊や羊の観察を通して、「見る」という行為のあいまいさ、そして「見る」ことの機能や意味など「見る」ことそのものについても考える契機としてください。

\*この授業は木工技術を習得する授業ではありません。また、受講に当たって事前に木工技術や木彫りの方法を事前学習しておく必要もありません。(木彫制作のための最小限の道具の使い方や技術指導・説明は、必要に応じて授業内で行います)

## 課題の概要

## ○面接授業課題

## 【木彫クラス】

自然物をモチーフに、一辺 20 cm の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

## 授業計画

## [面接授業]

## 【木彫クラス】

第 1 日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明	午後：制作（木彫）
第 2 日	午前：制作	午後：制作・木材接着説明
第 3 日	午前：制作	午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日	午前：制作	午後：制作
第 5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

## 成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「造形基礎 I～IV」の単位を既に修得していることを条件（3 年次編入学生を除きます）とします。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

---

教材等

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

---

その他

- ・授業初日より、必ず、作業服・作業靴（運動靴可）を着用してください。
- ・「彫塑Ⅲ」【木彫クラス】は、「彫塑Ⅰ」【木彫クラス】と合同で面接授業を行います。  
（様々な目標や興味を持つ異分野の人たちとできるだけたくさん学修の機会と空間を共有することで、お互いに切磋琢磨できるような教室環境づくりに努めます。）
- ※「彫塑Ⅲ」は【塑造クラス】、【木彫クラス】ともに、芸術文化学科教職課程履修者の「教科に関する科目」として取り扱われます。

## 0670 | 彫塑 IV

2 単位 (面接授業 2 単位)

伊藤誠教授、黒川弘毅教授、富井大裕准教授

## 授業の概要と目標

- 「抽象彫刻のA/B/C」:スマートフォンのカメラ機能、石膏型取り、アーク溶接(鉄の溶接)の技法を使い、3人の彫刻家(Arp/Brancusi/Caro)の、作品に至る方法を分析することから生まれる3つの課題の制作を行う。
- 「抽象彫刻」とはなんのでしょうか。それらは具象彫刻に対して一般的にはそのように呼ばれています。しかし、各々の抽象彫刻はいったい「何が」違うのでしょうか。そして「何を」目指してきたのでしょうか。この実技は彫刻家の方法を新たな解釈で分析することから生まれる課題による実習です。ここでは3人の彫刻家(Hans Arp/Constantin Brancusi/Anthony Caro)を取り上げ、作品の造形的な特徴よりも、彼らのドローイングや展示された空間、歴史的背景など、制作のバックボーンを探ることから、少し実験的な課題を作ってみました。彫刻制作の経験は問いません。この実習は3種類の課題作品の制作をします。作品のプロセスを分析しそれぞれの異なるアプローチから追求することによって、よく知られた美術史とは少し違った視点の可能性を探ること、自身の制作のための実験や課題を発見する力をつけることを目標とします。

## 課題の概要

- 課題A:写真をもとにして形体を導き出す方法を考える実習。(石膏型取り)  
 課題B:作らないで<見つける>表現の実習。(デジタル写真)  
 課題C:6~9mmの鉄の丸棒を溶接して立体になった「言葉(文字)」を作り、立体としての構造を再解釈することで別の視点を見つけ出す実習。(アーク溶接)  
 \*各課題の詳細は当日のオリエンテーションで説明

## 授業計画

- [面接授業]
- 1日目 課題Aオリエンテーション:3人の彫刻家について。課題の概略説明。分析するための3つのキーワードについて。ハンス・アルプ(1886-1966)についてのリサーチ。写真とドローイング開始。  
 2日目 課題Aドローイングの継続、石膏を使用した実習。展示と講評。  
 3日目 課題Bオリエンテーション。コンスタンチン・ブランクーシ(1876-1957)についてのリサーチ。チェスのルールと6種類の形体の設定。  
 4日目 課題B写真撮影、展示、講評  
 5日目 課題Cオリエンテーション。アンソニー・カロ(1924-2013)についてのリサーチ。アーク溶接の実習。  
 6日目:課題C作品制作、展示、講評(日程が変更する可能性あり)

## 成績評価の方法

制作された作品とプレゼンテーションから以下の基準で採点します。  
 評価基準:各プロセスが各自の判断で正確に行われていたか。制作の結果、新たな観点が獲得できたか。

## 履修条件及び履修年次

- [履修年次] 2~4年次  
 [履修条件] 「造形基礎I~IV」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること(3年次編入学生を除く)  
 [備考] 設備と指導体制の関係上スクーリング受講者数について24名を上限とする。  
 下記の条件を満たす端末(スマートフォン・携帯電話・iPadなど)を所有・持参し、利用できること。  
 ・写真を撮影できること。  
 ・撮影した写真を即時に送信できること。

## 教材等

- ・各課題のオリエンテーション時に配布する。
- ・5日~6日目はアーク溶接機を使用します。保護具は準備しますが強い紫外線が発生することをご了承ください。

## その他

芸術文化学科所属の教職課程履修者は、この授業科目は「教科に関する科目」として取り扱われる。

## 2340 | 彫塑Ⅴ【塑造クラス】

2 単位（面接授業 2 単位）

脇谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

## 授業の概要と目標

この授業では、「彫塑Ⅰ」や「彫塑Ⅲ」の授業で体験し獲得した観察と造形の経験を下地にして、塑造制作をさらに広げ、深めてください。

指導もさらに踏み込んだ専門的なものとなります。

※「彫塑Ⅰ」【塑造クラス】と「彫塑Ⅲ」【塑造クラス】の授業の概要と目標については、それぞれのシラバスを参照してください。

## 課題の概要

○面接授業課題

## 【塑造クラス】

人体モデルの「頭部」をモチーフとして、粘土及び石膏直付けで彫刻を制作します。

授業前半では粘土（塑造）により制作します。石膏型取りを行い、その後石膏直付けにより継続して制作します。

## 授業計画

[面接授業]

## 【塑造クラス】

第1日	午前：前提講義	研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意	午後：制作（塑造）
第2日	午前：制作		午後：制作
第3日	午前：制作		午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～18:30）
第4日	午前：石膏型取り作業		午後：石膏型取り作業 夜：石膏型取り作業（～18:30）
第5日	午前：清掃、制作（石膏直付け）		午後：制作
第6日	午前：制作		午後：清掃、講評・採点

## 成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「彫塑Ⅰ」【塑造クラス】または「彫塑Ⅲ」【塑造クラス】の単位を既に修得していることを条件とします。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

## 教材等

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

## その他

授業初日より、必ず、作業服・作業靴（運動靴可）を着用してください。

## 2340 | 彫塑Ⅴ【木彫クラス】

2 単位（面接授業 2 単位）

脇谷徹教授、戸田裕介教授、山本一弥准教授

## 授業の概要と目標

この授業では、「彫塑Ⅰ」や「彫塑Ⅲ」の授業で体験し獲得した観察と造形の経験を下地にして、木彫制作をさらに広げ、深めてください。

指導もさらに踏み込んだ専門的なものとなります。

※「彫塑Ⅰ」【木彫クラス】と「彫塑Ⅲ」【木彫クラス】の授業の概要と目標については、それぞれのシラバスを参照してください。

## 課題の概要

○面接授業課題

## 【木彫クラス】

自然物をモチーフに、一辺 20cm の立方体に製材された木材を、モチーフ観察に基づく制作計画にそって切断し再構築する、寄木造りという技法を用いて制作します。

## 授業計画

[面接授業]

## 【木彫クラス】

第 1 日	午前：前提講義 研究室の教育方針・課題内容及び授業に必要な道具、材料の解説、作業上の諸注意。鋸引き説明	午後：制作（木彫）
第 2 日	午前：制作	午後：制作・木材接着説明
第 3 日	午前：制作	午後：制作・鑿研ぎ説明
第 4 日	午前：制作	午後：制作
第 5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：清掃、講評・採点

## 成績評価の方法

完成作品と制作プロセス両方を、担当する全教員で評価します。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4 年次

[履修条件] 「彫塑Ⅰ」【木彫クラス】または「彫塑Ⅲ」【木彫クラス】の単位を既に修得していることを条件とします。

[備考] 月刊誌『武蔵美通信』6 月号掲載のスクーリング受講に関する注意事項を熟読してください。

## 教材等

前提講義において、参考作品等のスライド上映を行います。

## その他

授業初日より、必ず、作業服・作業靴（運動靴可）を着用してください。